

ナノダイヤモンドに関する事業化の検討を開始しました

昨年12月、当社は、ナノダイヤモンド及びその関連商品全般について事業化の検討を開始しました。ナノダイヤモンドとは粒子の大きさがナノ（10億分の1）メートル大の人工ダイヤモンドで、高屈折率・光散乱性・高熱伝導性・高硬度などの特長を有するナノ炭素材料のひとつです。さらに、物体の表面性質を変化させやすくする性質があり、様々な素材との組み合わせが可能です。この性質を応用し、今後ナノダイヤモンドを使用したプロジェクター用スクリーンの実用化により、スクリーン事業に取り組みます。さらなる展開について、産官学連携や他分野との交流等の中で検討してまいります。



ナノダイヤモンドを使用したプロジェクター用スクリーン

山田製薬株式会社 新工場稼働（茨城県かすみがうら市）

昨年12月、当社の子会社で、化粧品や医薬部外品の受託製造（ODM/OEM）を行う山田製薬株式会社の新工場棟が完成し、稼働を始めました。お取引先様からの受注量が既存工場のキャパシティを超えるに至ったため、この需要に対応すべく、新工場棟を建設いたしました。

新工場棟では、医薬品製造で培った高度な品質管理基準を満たすゾーニングプランの下、全9ラインの製造ラインを設置。量産性に優れた最新の全自動充填ラインと、製品によって柔軟にカスタマイズ可能な半自動充填ラインを並列的に配置し、様々な需要にお応えできる設備・構造となっております。生産能力は従来の3倍となり、さらなる需要増に対しても十分に対応可能となりました。



新工場棟の外観

株主優待品発送のご案内

当社では毎年、12月31日現在で当社株式1,000株以上保有の株主様に一律で、株主優待として当社のヘアケア商品（メーカー希望小売価格3,000～5,000円：税抜 相当）を贈呈しております。今年は、まるで世界中を旅しているように香りを楽しめる「デミ コスメティクス ヘアシーズンズ アロマシロップス サマーバージョン」のシャンプー・ヘアトリートメント・リフレッシュ*の3点セット（メーカー希望小売価格5,800円：税抜 相当）を4月上旬にお届け予定です。この機会にぜひご使用いただき、香りや風合い、涼しい使用感などをお楽しみください。※高濃度の炭酸により弾けるパチパチとした使い心地と、ひんやりとした爽快感が特徴の頭皮用トリートメントスプレーです。ボディローションとしても使用可能なため、全身のうおいケアができます。



写真左から
シャンプー 250mL ¥1,600（税抜）
ヘアトリートメント 240g ¥2,600（税抜）
リフレッシュ 140g ¥1,600（税抜）

会社概要（2016年12月31日現在）

商 号 日華化学株式会社
本社所在地 福井県福井市文京4丁目23-1
創 立 1941年9月15日
資 本 金 2,898,545,000円
従 業 員 数 1,418名（連結）575名（個別）

株主メモ

事 業 年 度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月下旬
基 準 日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日／中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部（電話照会先）電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●本社・総合研究所・デミ毛髪科学研究所・化粧品製造所／〒910-8670 福井市文京4丁目23-1 TEL (0776) 24-0213（代）
●支店／東京・大阪・名古屋 ●営業所／仙台・広島・福岡 ●工場／福井（デミ）・鯖江・関東・鹿島
●鯖江物流センター ●デミ ヘア サイェンス スクエア東京・大阪・名古屋
〔国内関係会社〕 山田製薬株式会社 コスメラボ株式会社 イーラル株式会社 大智化学産業株式会社 江守エンジニアリング株式会社
〔海外関係会社〕 日華化学研発（上海）有限公司 DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD. 香港日華化学有限公司 DEMI KOREA CO.,LTD. ニッカ U.S.A., INC. ニッカ KOREA CO., LTD. PT.インドネシアニッカケミカルズ 浙江日華化学有限公司 台湾日華化学工業股份有限公司 STC ニッカ CO., LTD. ニッカ VIETNAM CO., LTD. 広州日華化学有限公司
●発行／日華化学株式会社 ●発行月／2017年3月 通算32号

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE グローブ

第103期 営業のご報告 2016年1月1日～2016年12月31日



東証1部上場を果たし、新たなスタートへ。 新中長期経営計画を策定。

- 事業概況のご報告
- 日華チャレンジ
- 新中長期経営計画
- マルチナショナルカンパニーへの道 香港日華化学ダッカ事務所
- NICCAの「イノベーション・スイッチ」超高速遺伝子解析用試薬
- 財務の状況
- トピックス

75th
Anniversary

これからも、ずっと、輝く未来。
Activate Your Life

日華化学株式会社





株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2016年度（第103期）決算概況についてご報告いたします。
当連結会計期間（2016年1月1日～ 2016年12月31日）におけるわが国経済は、企業業績が好調に推移していることに加え、個人消費にも持ち直しがみられるなど、緩やかな回復基調で推移していますが、中国の景気減速や米国新大統領の就任による世界経済への影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いています。
このような状況のもと、当社グループは化学品事業において、積極的に経営資源を投入し事業拡大や新規開拓を行い、化粧品事業においては、主力のデミ コスメティクスの拡販や東アジア地域への積極的な事業展開を進めました。しかしながら、円高や韓国でのフッ素化学品受託終了等が大きく影響し、減収減益となりました。

当社は当期間に創立75周年を迎えることができ、東証・名証1部上場を果たすこともできました。これもひとえに、株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様など、多くの皆様のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。
これからも、このたび策定いたしました新中長期経営計画のもと、業容の拡大と企業価値向上に努めてまいります。
株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜り、末永くお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 江守康昌

2016年度（第103期）決算概況

売上高 442億2千2百万円 5.0%減

- 円高、韓国フッ素化学品受託終了
- 化粧品子会社好調

営業利益 14億5千8百万円 38.3%減

- 売上高減少により減益
- 東京支店移転、業務基幹システム稼働、新規事業研究開発等に伴う経費増加

経常利益 15億8千8百万円 35.0%減

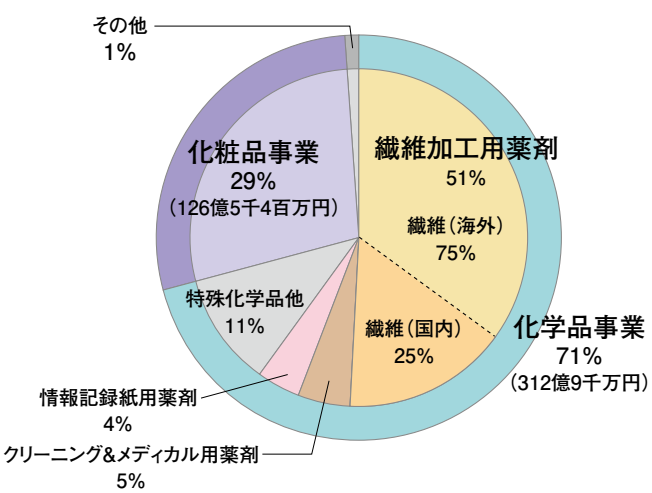
- 円高による利益減少

親会社株主に帰属する
当期純利益 3億4千6百万円 69.9%減

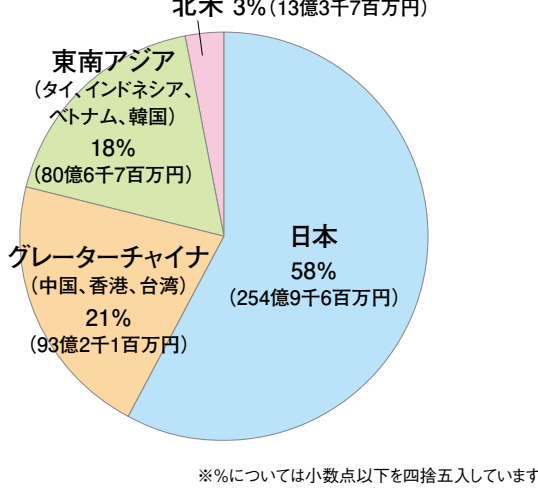
- 厚生年金基金解散に伴う損失

※売上高・営業利益・経常利益はすべて連結の金額です。
また％表示は前年同期比です。

■事業別売上高比率



■地域別売上高比率



※％については小数点以下を四捨五入しています

化学品事業



繊維加工用薬剤
繊維加工の一連の工程（製織・製編から精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤



クリーニング&メディカル用薬剤
クリーニング店向けの薬剤、医療用器具の洗浄剤等



情報記録紙用薬剤
インクジェットプリント用薬剤や、ラベル、チケット、タグ、レジスター紙等の高性能感熱紙に使用される顔色剤、増感剤



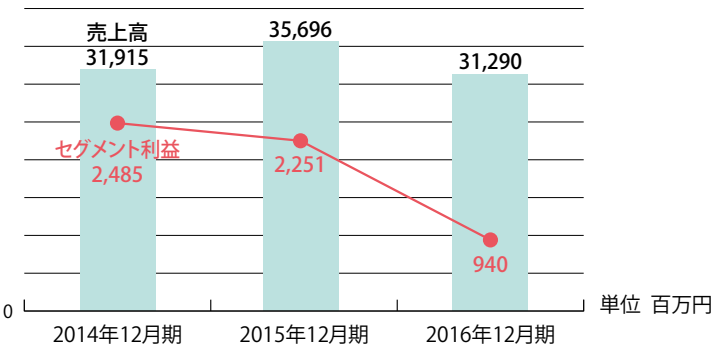
特殊化学品他
合成ゴムやプラスチック素材、電子材料加工時に使用される界面活性剤

※売上高・営業利益・経常利益はすべて連結の数字です。また％表示は前年同期比です。

売上高 312億9千万円 12.3%減
セグメント利益 9億4千万円 58.2%減

- 大智化学産業の子会社化
- インドネシア、ベトナム伸長
- 円高、アジア通貨安による目減り
- 韓国でのフッ素化学品受託終了
- 台湾、広州売上減

国内では、業務用クリーニング薬剤、製紙用薬剤、非イオン活性剤の他、大智化学産業が堅調に推移し、海外では、主力の繊維化学品事業がASEAN地域を中心に販売を伸ばしたものの、年初からの円高及びアジア通貨安、韓国でのフッ素化学品受託終了の影響を受け、売上高、セグメント利益ともに減少しました。



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品
「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM
髪用化粧品の相手先ブランド受託生産

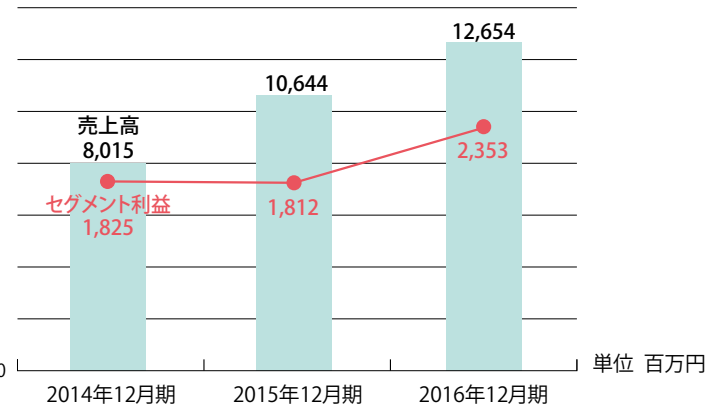


一般通販
フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサージュ」のインターネットによる通信販売

売上高 126億5千4百万円 18.9%増
セグメント利益 23億5千3百万円 29.8%増

- イーラルが堅調に推移
- 山田製薬受託製造事業が大幅伸張
- デミコリアが引き続き好調

デミ コスメティクスやイーラルの販売が堅調に推移したことに加え、山田製薬における製造受託事業が大幅に伸長したことや、デミコリアの販売も引き続き好調であることから、売上高、セグメント利益ともに増加し、化粧品事業としては長期ビジョン2016を達成しました。





創立75周年の節目に東証1部上場。 新たなスタートラインに立ち、 一層の業容拡大と企業価値向上を目指す。

2010年に発表した長期経営計画「長期ビジョン2016」の最終年となる2016年12月期の連結業績は減収減益となりました。前ビジョンで目標としていた売上高500億円は達成できなかったものの、東証1部上場を果たしたほか、好調が続く化粧品事業で最高益をあげるなど、今後の飛躍に向けた好材料もありました。この1年の連結業績と長期ビジョン2016、また今後の取り組みについて、代表取締役社長・江守康昌が語ります。

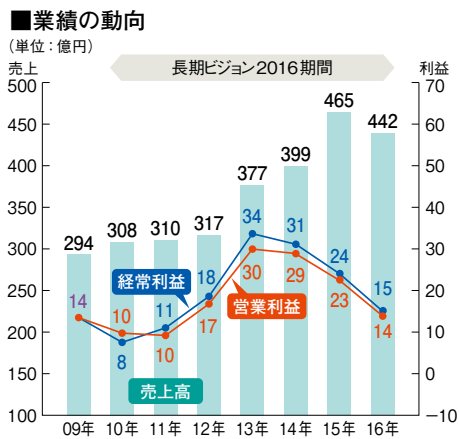
代表取締役社長

江守 康昌（えもり やすまさ）

2016年、化学品は厳しい結果に

前期に比べ、減収減益となった2016年12月期は非常に変化が激しい一年でした。売上高の約70%を占める化学品事業で、売上高の前期比は12.3%減となりました。繊維加工需要が拡大しているアセアン諸国の中でもインドネシアやベトナムでの売上は増加しましたが、その他エリアについては既存顧客の受注が伸び悩みました。また、韓国でのフッ素化学品受託が終了し、売上高に大きく影響しました。さらに円高の影響で、海外の売上高及び利益が目減りしたことが業績にマイナスの影響を与えました。

このほか、新規事業の創出に向け関連経費が増加したのをはじめ、東京支店の移転、グループ統一業務基幹システム導入に伴う経費の増加、厚生年金基金の解散に



伴う特別損失の発生も、減益の要因となっています。

ただ、中長期的な視点で見れば、当社の業績は成長を続けております。化学品事業につきましても、韓国にて新タイプのフッ素系撥水加工剤の生産が2017年の中盤から本格化します。また、インドネシアやベトナムの子会社※1の業績が伸長するなど、ビッグアカウント※2攻略も着実に実を結び始めています。新興国の経済成長と世界的な人口増加を背景に、今後、アジアの繊維産業はさらに成長する見込みであり、当社にとってはビジネスチャンスがさらに増えていくと考えております。

一方、化粧品が好調。新事業の芽も

一方、売上高の約30%を占める化粧品事業は好調に推移し、売上高は前期比18.9%増となりました。国内ではイーラル※3が堅調に推移したほか、山田製薬※4の製造受託事業も大幅に伸びました。海外ではデミコリアが引き続き好調を維持しました。

2016年12月には、山田製薬新工場が竣工、稼働を開始しました。これによって生産能力は従来の約3倍となり、さらなる需要増に対しても十分に対応可能となりました。

また、超高速遺伝子解析用試薬の販売開始、透過型プロジェクター用スクリーンの開発をはじめとするナノダイヤモンド※5に関する事業化の検討開始など、新規事業の

創出も着実に歩みを進めています。研究開発の中核拠点となる「NICCA イノベーションセンター」の建設も2017年11月の稼働を目指し、順調に進んでいます。

「新生と深化」が進んだ7年

冒頭でも述べましたように、2016年は2010年に発表した長期ビジョンの最終年でもありました。

当期間では特に2010年から2015年にかけての伸びが非常に顕著であり、また当期間で事業の選択と集中を行ったことで、持続的な発展の基盤をつくることができました。

長期ビジョン2016のテーマに掲げたのは「新生と深化」です。研究開発を進め、新規事業の礎を築くとともに、当社がこれまで培ってきた技術やノウハウを生かすことができる分野についてはさらに深掘りし、優位性を確固たるものにする。そんな取り組みができたと感じています。

例えば、化学品事業では非イオン界面活性剤の主力生産拠点となる鹿島工場の竣工を皮切りに、花王がタイ、インドネシア、台湾で営んでいた繊維加工用薬剤事業を譲り受けるなど、繊維加工用薬剤の世界トップを目指す取り組みに注力しました。また、電子材料分野へのビジネス展開を加速させるため大智化学産業※6を買収する一方、金属加工用の薬剤を製造する事業

用語解説

※1 インドネシアやベトナムの子会社

現地子会社であるPT.インドネシアニッカケミカルズとニッカVIETNAM CO.,LTD.。どちらも当社から製品及び中間体を購入し、界面活性剤の製造・販売を手がけています。

※2 ビッグアカウント

当社がターゲットとしている超大手繊維加工製造業。世界的に有名なファッション／スポーツアパレル企業からの受注が集中しており、大型機械で生産・加工し世界市場に供給しています。

※3 イーラル

2010年に設立した当社の100%子会社（本社：東京都港区）で、ブランドネームも兼ねています。「毛髪科学」の成果を「エイジングケア」商品と施術としてパッケージ化。美容室の新たな付加価値メニューとして提案するビジネスを展開しています。

※4 山田製薬

1910（明治43）年創業（本社：東京都中央区）。1995年に当社が買収した100%子会社。医薬品、化粧品、健康食品、水関係品、雑貨品等の受託製造販売を手がけており、かすみがうら工場は化粧品事業の第二工場としての役割も担っています。

※5 ナノダイヤモンド

粒子の大きさがナノ（10億分の1）メートル大の人工ダイヤモンド。当社の得意とする界面制御技術を活用し、ナノダイヤモンドを付着させたフィルムを使ったスクリーンの開発を進めています。従来の液晶モニターなどと比べ、明度が高く、どの角度でも鮮明な映像が見られる点が特徴です。

※6 大智化学産業

1966（昭和41）年創業（本社：東京都中央区）。2015年に当社が買収した100%子会社で、半導体等の電子部品用素材加工薬剤のトップメーカーです。

※7 MORESCO

1958（昭和33）年創業の金属加工大手（東証1部上場）。当社金属加工用事業であったダイカスト用離型剤および鍛造用潤滑剤を2013年5月に同社に事業譲渡。

※8 フェムトリアクター

当社が現在実用化に向け技術開発している、ナノ粒子等の超微粒子や液滴（液体の粒）に化学反応を起こして化合物を合成する反応装置（リアクター）。フェムトとは単位を示す言葉で千兆分の1を意味します。

※9 店販

店頭販売の意味で、シャンプー・トリートメント・スタイリング剤などを美容室で専売にしています。髪のプロである美容師は、お客様の髪質やスタイルケアに合わせて美容技術に連動した商品を使用しており、その販売商品を「店販品」と言います。

※10 ISPO

International Trade Show for Sports Equipment and Fashionの略で、世界最大級のスポーツ及びアウトドア用品・衣料品展示会。2017年ドイツ（ミュンヘン）で開催された同展示会には、2,500社超が出展、120カ国以上から約8万人が来場。当社は2015年より出展し、環境対応技術をPRしています。

をMORESCO社※7に売却するなど、将来の成長に向けた戦略分野にリソースを注力すべく、大胆な戦略で選択と集中を進めました。

製紙用薬剤分野では、特に新聞紙等のリサイクルに使われる脱墨剤は性能面でも高く評価されており、これら脱墨剤や非イオン界面活性剤の販売増により、鹿島工場の生産量も高い稼働率で安定的に推移しています。

さらに、超高速遺伝子解析用試薬（詳細についてはP8をご覧ください）の他にも、炭素繊維加工用薬剤、フェムトリアクター※8を活用したナノ合成技術、医療器具の洗浄剤など、新規事業の芽をいくつも育てることができました。溶剤系からの置き換えが進んでいる水系ウレタンやフッ素フリー撥水剤など、環境に配慮した製品の開発も大いに期待できる分野であり、今後の事業化に期待を寄せております。

化粧品事業の多角化・多国化が奏功

化粧品事業については、国内美容室向け店販※9戦略や多角化・多国化戦略が奏功し、7年間で売上高は2.1倍と、飛躍的な成長を遂げることができました。店販戦略では美容室で来店客に販売するヘアケア剤、スタイリング剤等の「店販品」で同3.4倍となったほか、多角化戦略では、前述のイーラル、山田製薬による製造受託事業の好調

により、2009年から2016年にかけての売上高は4.5倍に達しました。多国化戦略では特に韓国での展開が順調に拡大し、7年間での売上高は9倍にもなりました。

もちろん、課題がないわけではありません。例えば、国内の主力である美容室向け総合ブランド「デミ」では、繁盛店や成長性の高い美容室を当社が能動的に選定して直接アプローチする「ノミネートサロン戦略」の強化が不十分でした。新製品開発においても市場に強烈なインパクトを与えるようなブレークスルーを実現できなかったことも反省材料です。今後はこうした課題に適切に対応し、高級ヘアケア製品のリニューアルなどを通して国内市場の開拓を強化していく考えです。

世界のトップ企業から高評価

改めてこの7年を振り返ると、いわゆる一流大手のお客様に直接アプローチできる下地ができたことも、今後の成長に繋がる成果だと思っています。例えばISPO※10など国際見本市への出展を通じて、当社のフッ素フリー撥水剤が高く評価され、これまでは接触できなかった大手ファッション／スポーツアパレルブランド企業とトップ面談ができるようになったほか、これらの企業のニーズを取り込みながら新製品を開発できる流れを作り上げることができました。こうしたお客様と連携できる環境を整えることで、前長期ビジョンで

掲げていた「グローバルベスト」な企業にまた一歩近づくことができたと自負しています。

取り組みの集大成としましては、2016年12月26日に当社にとって悲願となる東証1部上場を果たすことができました。創立75周年という節目に上場できましたことを非常に喜ばしく感じております。これもひとえに株主の皆様の温かいご厚情ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。



東証1部上場

とはいえ、当社にとってこれは決してゴールではなく、新たなスタートラインに立ったに過ぎないと認識しております。今期の結果を真摯に受け止めるとともに、新中長期経営計画（詳細についてはP5-6をご覧ください）のもと、名実共に東証1部上場にふさわしい企業として、これからも業容の拡大と企業価値の一層の向上に努めるとともに、社会からお客様から社員からもさらに信頼され選ばれる会社を目指して、社業に励む所存です。今後ともご支援・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

世界中のお客様から最も信頼される イノベーション・カンパニーを目指して。 新研究中核拠点を軸に「協創と改変」を進める。

日華化学グループでは、2025年までの全社基本ビジョン及び長期経営計画を策定しました。合わせて、そこで掲げた目標を達成するために、2017年から2019年を計画年度とする新中期経営計画をスタートしました。新中期経営計画ではこの3年間で「改変期」と位置づけ、永続的な成長を図るため、激変する経営環境に左右されない強固な経営基盤の構築をテーマに掲げています。具体的にはどのような取り組みを実施していくのか。その内容を解説します。

長期ビジョン 「INNOVATION25」

当社グループは2025年までの全社基本ビジョンをINNOVATION25「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」と定めました。2017年11月竣工予定の「NICCA イノベーションセンター（NIC）」を核に、オープンイノベーションによる技術革新を巻き起こし、これを成長の糧にしながら、お客様が課題の解決に向けて模索しているときや、あるいは何か新しい製品を求めている際、真っ先に声がかかるような「ファーストコールカンパニー」として発展していきたいと考えています。



NICCA イノベーションセンター完成予想図

当基本ビジョンを掲げ、2017年から2025年までの9年間で長期経営計画期間とし、数値目標としては、最終年の2025年に売上高800億円（2016年比で1.8倍）、営業利益64億円（2016年比で4.6倍）、EBITDA*80億円以上、ROE8%以上（前提：為替100円/USドル）を目指します。

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費（のれん償却含む）

そして、当基本ビジョン達成のために必要な経営軸を、以下の3つに定めています。

- ①界面科学、毛髪科学、そして新たにナノテクノロジー*で世界を先導します。（Innovation・イノベーション）
- ②グローバルにお客様の支持を拡大し、成長する高収益企業を目指します。（Efficiency・エフィシェンシー）

- ③環境と社会の変化に積極的に対応し、勝ち続ける強い企業を目指します。（Sustainability・サステナビリティ）

※ 界面科学においてもナノ構造材料を用いた新しい用途や素子への応用研究が不可欠となっています。当社では従来の界面科学をベースに、ナノテクノロジーにフォーカスしてまいります。

また、この9年間でさらに次の3つの期に分け、基本ビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

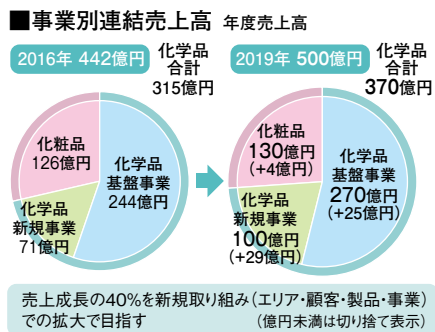
2017年～2019年
将来の確実な成長のために
経営基盤を固める「改変期」

2020年～2022年
基盤事業が着実な成長で
安定的な利益を創出し、
新規事業が確立する「成長期」

2023年～2025年
新規事業が基盤事業に成長し、
投資が実を結び
利益を最大化する「飛躍期」

中期ビジョン 「INNOVATION19」

2019年までの新中期経営計画では、INNOVATION19「協創と改変」をテーマに掲げ勝ち続ける強い企業集団を目指し、長期経営計画の達成に向け、経営基盤を固める3年間にしていきたいと考えています。数値目標としては「長期ビジョン



2016」の計画であった売上高500億円を再び掲げ、営業利益25億円、EBITDA 50億円以上、ROE5%以上（前提：為替100円/USドル）を目指してまいります。また、NICの建設をはじめ、鹿島工場第2期工事、海外拠点の設備増強など140億円規模となる戦略的成長投資を見込んでいます。

そして、この目標を達成すべく、この3年間は「イノベーションの推進」「グローバルネットワークの強化と拡大」「『勝ち続ける』経営基盤の構築」の三つを全社経営戦略として取り組んでまいります。

まず、イノベーションの推進では、当社グループがさらに成長していくためには、繊維加工用薬剤や化粧品等の既存コア事業でイノベーションを巻き起こし、新製品、新技術を生み出すと同時に、将来の経営の柱となる新規事業の創出が不可欠です。その中核を担うのがNICです。

これまでは化学品事業と化粧品事業の研究開発室は、本社敷地内の離れた棟にありそれぞれで活動していましたが、NIC完成後は研究開発部門がそこに集結します。社員同士が部門の垣根を超えて情報交換するのはもちろん、世界中のビジネスパートナーや技術者にもNICの活用を促し、国内外の産官学の最新の技術や知見、情報、アイデアを融合させることで、新製品、新事業を創出することが狙いです。これまで以上に力強くイノベーションを進めるため、活気に満ちあふれ、エネルギーが湧き出てくるような「知の拠点」にしていきたいと考えています。

海外事業をさらに強化

グローバルネットワークの強化と拡大については、世界的なファッション／スポーツアパレルブランドから繊維加工を一手に受注し世界市場に供給する超大手繊維加工企業（ビッグアカウント）と、強固なパートナー

シップを構築してまいります。

その施策としましては、優れた製品を提供していくことはもちろんですが、お客様に何か予想外のことやトラブルが起きた際に真摯で柔軟な姿勢でケアを行っていく等、顧客対応力をさらに強化します。これにより、お客様とのより密接な信頼関係を築いていきたいと考えています。当社はアジアを中心に海外拠点を展開し、国内では百数十人、上海で約50人、台湾で約30人、韓国で約20人の研究者が活躍するほか、各拠点にはお客様の工場に直接出向いて加工指導を行う技術サポートメンバーも常駐しています。このグローバルネットワークを生かして、世界各国にまたがるお客様へのきめ細やかな技術サポートについては得意中の得意と自負しています。今後はイノベーションの推進もさらに強化し、高品質・高付加価値製品開発を強化しながら、新たな販路開拓につなげていく考えです。

より筋肉質な企業体質に

「勝ち続ける」経営基盤の構築については、2016年12月期の反省を生かし、為替など外部環境に左右されない、より強い企業体質への転換を目指します。そのために以下、6つの取り組みを進めます。

- ①関東工場の閉鎖と生産の集約
老朽化した関東工場を閉鎖し、その機能を国内外の他工場に移管するとともに、生産拠点の再編と集約を図り、事業効率を高めます。
- ②中国拠点の統合
浙江と上海の子会社を統合し、まずはこの2拠点の中国における意思決定やバリューチェーンを一本化することで事業運営の効率化を図ります。
- ③グループITインフラの戦略的活用
昨年導入したグループ会社統一の基幹業務システムを活用することで、業務の効率化と改善を進め、収益性を向上させるとともに、グループ会社各社の経営状況をリアルタイムに把握し、よりスピーディーな経営判断・意思決定を実行します。
- ④グローバル財務戦略の確立
子会社ごとに管理しているキャッシュの流動化・集約化等として為替リスクへの対策を講じるなど、グループとして機動的かつ有効に活用できる体制を整えます。
- ⑤人事制度改革
グローバル化や少子高齢化が進む中で、競争力を強化し、イノベーションを推進す

るため、ダイバーシティや働き方改革を進め、多様な人材が能力を最大限に発揮することができ、やる気に満ち、実績を挙げた社員をしっかりと処遇できる人事制度を導入します。

⑥コストダウンの推進

コストダウンプロジェクトを発足させており、徹底的な経費削減、業務の抜本的な見直しを行います。

こうした取り組みに注力することで余分な脂肪をそぎ落とし、企業体質をより筋肉質に変えと同時に、成長戦略によってさらにその筋肉を増強させていきたいと思っています。

新規分野の早期事業化を

事業別に見ると、この3年間の成長の牽引役となるのは化学品事業で、2019年の売上高は2016年に比べ約55億円増（約18%増）となる370億円を目指します。

主力の繊維加工用薬剤事業では、人や環境への負荷が少なく、世界の大手ファッショ／スポーツアパレル企業から多くのニーズを見込める水系ウレタンやフッ素フリー撥水剤などの開発、販売を加速させます。また、繊維加工の最大市場である中国へのさらなる拡販のみならず、近年台頭している南西アジア市場にも切り込み、高品質技術の提供や環境対応製品の拡販等で事業の拡大を図ります。

これらと合わせ、新規分野の早期事業化にもチャレンジします。例えば、ナノダイヤモンド分野、超高速度伝子解析用試薬（詳細についてはP8をご覧ください）、半導体分野、炭素繊維加工用薬剤分野などにおいて、NICを活用しながら、用途の開発や市場の創出に向け、本格販売への道筋を付けていきたいと思っています。

一方、化粧品事業では、2016年に比べ4億円増（約3%増）となる130億円を目指しています。伸びが小幅なのは、子会社の山田製薬が現在好調の要因である大型製造受託案件の減少を見込んでいるからで、その分、美容室向けの主力ブランド「デミ」、高級ヘッドスバブランド「イーラル」において高付加価値な新製品を開発するなどして、国内市場におけるプレゼンスを高めてまいります。

このほか、「デミ」「イーラル」、通販化粧品ブランド「アンサーージュ」に続く、第4ブランドとして健康食品・機能性食品等の分野で事業化を検討してまいりますので、ぜひご期待ください。



代表取締役社長

江守 康昌（えもり やすまさ）

持続可能な社会づくりに貢献

最後に、環境・CSRへの取り組み、及びコーポレート・ガバナンスについても触れておきたいと思います。

当社グループでは持続可能な社会づくりに貢献するため、環境対策は企業の使命との認識に立ち、限りある資源を無駄にしないようエネルギー使用量の削減に努めるほか、環境対応製品の拡販のみならず、顧客である加工工場からの排水低減や電力量削減提案等、業界全体の環境負荷低減に貢献できるよう、事業活動に取り組んでまいります。

また、公共施設周辺の清掃活動、インターンシップの受け入れ、地域住民の皆様や小中学校・高校の児童・生徒を招いての会社見学会の実施などに積極的に取り組んでおり、今後もこのような活動を継続的に展開していきます。

さらに、すべてのステークホルダーからの信頼に応え、健全な発展を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化にも力を入れています。何より東証1部上場こそがコーポレート・ガバナンスが適切に機能している証左と言えるでしょう。社外取締役が3名、社外監査役が2名の、計5名の独立役員とは意見交換会を定期的に開催し、非常に活発に意見をいただいております。こうした取り組みなどを通してガバナンスを強化しています。

全社基本ビジョン及び長期経営計画の達成に向け、まず2017年から2019年は経営基盤をしっかりと固める3年間とすべく、新中期経営計画を、全社員が一丸となり、着実に実行、実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



香港日華化学ダッカ事務所
事務所長
竹内 幸太郎



シニアエリアマネージャー
内山 眞昭

急伸する「繊維輸出大国」バングラデシュ。 “加工技術サポート”を武器に、シェア拡大を狙う。

ダッカ事務所は2014年8月、日華化学の子会社・香港日華化学有限公司の駐在事務所として、バングラデシュの首都・ダッカ市内に設立されました。以来、当地の繊維加工業をターゲットに、2015年度は120万ドル（米ドル・約1.3億円）、2016年度は230万ドル（同約2.5億円）と急速に売上高を伸ばしています。バングラデシュは近年世界第2位のアパレル（衣類）製品輸出国に登りつめ、国家を挙げて繊維産業の振興に取り組んでいます。バングラデシュの繊維産業と、その巨大な市場でアプローチする現地事務所の現状をご紹介します。

支えられ、次第に紡績から編、織布そして染色加工といった縫製品をつくる加工場が操業を始め、今日ではそれらを一貫して手がける“コンビジット”^{※3}と呼ばれる大規模な工場が出現するなど、繊維関連企業の大型化も進んでいます。現在繊維産業全体で3,500社を上回る縫製工場と約350社の染色加工工場があり、そのうち50トン/日の生産規模を持つコンビジットが50社もあり、主に欧州の各大手アパレル企業に輸出しています。この国の繊維産業は今日でも年率6%以上成長しており、この傾向は少なくとも2025年まで続くと予想されています。また繊維産業はこの国の重要かつ花形産業であるため、優秀な人材も集中しています。いわゆる日本の東大にあたるダッカ大学を卒業したエリートたちは繊維大企業に就職し、工場運営や経営現場でリーダーとして活躍していくのです。

—業績は順調に伸びていますね。

売上高はおかげさまで前述のとおり大幅に伸びており、事務所開設当時15社ほどだった顧客も40社程度に増えました。現在直接取引できる顧客を開拓するとともに、当社の製品を取り扱ってくれる代理店網の構築にも力を入れています。こうした努力が実を結び、現在の業績に繋がっていると考えています。今後はこの動きをさらに活発化し、さらなるトータルシェア率3%を目指した売上増を目指したいですね。

カー品によって席卷されていました。当社はこのような極めて不利な状況からビジネスをスタートしたのですが、当社ならではの特色を出すことで業績を伸ばしています。その特色の一つは加工品質です。成熟した欧州市場のニーズに合うよう、一定水準以上の仕上がり品質が求められ、また加工工程で有害物質を出さないなど環境対応も必須条件となってきました。最近では日本の大手SPA^{※4}向けの輸出も増加し、ますますこういった高品質対応・環境対応が必要となつていますが、こうした加工対応は当社の得意とするところなのです。

もう一つの特色はカスタマイズ力と指導力です。当社のターゲットとなるのは350を数える染色加工会社中、コンビジットを含むトップ100社で、いずれも大規模な工場を運営しており生産合理化に貪欲に取り組んでいます。繊維加工の仕上がりは、使われる機械や水、温度等さまざまな要因で左右されますが、これらの企業に対し、事務所のラボ設備を利用しながらそれぞれの工場環境に最適化（カスタマイズ）した加工薬剤を作り、その「使い方指導」「コストダウン提案」も行いながら経営に貢献していくのです。これは当社がこれまで多くの企業で実践し、確かな実績を残してきた伝統的な手法です。同業他社と比較してもこのような体制を築いている会社は珍しいですね。

3月には、現地でコンビジットをはじめとする繊維加工会社の経営者、マネージャーなど、お客様を含め約180名を招き、技術セミナー「Nicca Innovation in Textile Chemicals」を開催しました。これを機会に繊維加工技術や工程合理化などについて蓄積してきた当社の知見をより広く提供し、「頼りがいのあるパートナー」として存在感をさらに高めていきたいと考えています。



技術セミナーで講演する内山

輸出品の8割がアパレル製品

—バングラデシュについて教えてください。

バングラデシュは繊維産業を中心に西南アジア経済圏で世界の繊維産業の中心国として近年急速にその存在感を増している国です。国土面積は日本の4割程度ですが、そこに1億6千万の人々が住んでおり、豊富な若い労働力と繊維縫製品を生産していく上で有利な手先の器用な国民性が特徴で、安価な人件費とエネルギーコストを生かし、労働集約型の繊維産業が急速に成長を遂げてきました。政府も国策として繊維産業をバックアップしており、またLDC（後発開発途上国）のため輸出先から特惠関税^{※1}を受けられることもあって2010年頃から、特に欧州向けアパレル製品の輸出加工地として急激に伸び、今日では輸出全体に占める比率が80%にも達しています。

—事務所の開設目的や陣容は？

香港日華化学は、15年以上前からPT.インドネシアニッカケミカルズ^{※2}で生産した繊維加工用薬剤をバングラデシュ向けに供給してきましたが、さらなる市場開拓・事業拡大を目指し、ダッカ事務所を開設しました。現在、事務所はダッカ中心部の住宅街にあり、日本人2名と現地採用の5名で運営しています。加工試験ができるラボ設備も事務所に備えており、2名が当試験を担当しています。

順調に伸びる業績

—バングラデシュの繊維産業の動向は？

最初はミシンがあればできる「縫製品」から始まりました。その後、縫製品輸出の増加に

用語解説

- ※1 特惠関税
LDC（後発開発途上国）からの輸入について一般よりも低い関税を適用することで、LDCの経済発展を支援する制度。
- ※2 PT.インドネシアニッカケミカルズ
インドネシア共和国カラワン市。日華化学の子会社（出資比率90%）で、1974年に設立。日華化学から製品・中間体を購入し、薬剤の生産・販売を手がけている。

- ※3 コンビジット
複数のものを組み合わせたものの意味で、繊維産業においては糸の調達から生地生産、染色加工等を経て最終縫製品となるまで、製品づくりを一貫して行う企業のことを指す。

- ※4 SPA
Speciality store retailer of Private label Apparelの略で製造小売ともいう。企画から製造、小売までを一貫して行うアパレルのビジネスモデルを持つ企業。

品質や指導力を武器に

—今後の戦略は？

バングラデシュが繊維産業で急伸しはじめた当時、繊維加工用薬剤の市場は欧州メー

超高速での遺伝子検査を可能にする 試薬の量産化に成功し、供給開始へ。

「生命の設計図」とも呼ばれる遺伝子。この遺伝子を検査・解析することで、がんなどのリスクや、個人の体質の特徴を知ることができます。北陸先端大^{※1}の藤本健造教授と共同研究を進めてきた当社は、超高速で遺伝子検査を可能にする試薬の量産化に成功し、販売を始めました。医療や創薬といった応用分野のみならず、ケミカルバイオロジー分野^{※2}等の基礎分野でも利用が期待されます。

画期的な遺伝子解析手法

従来の手法と比べ格段に短時間で、しかもほぼ100%の精度で遺伝子を解析できる——そんな技術が開発されたことを受けて、当社は解析に欠かすことができない「試薬」の量産化に挑み、成功しました。

この遺伝子解析技術を開発したのは、北陸先端大マテリアルサイエンス研究科の藤本健造教授の研究チーム。藤本教授らはかねてより遺伝子进行操作する技術開発に取り組み、遺伝情報を持つDNAや、DNAから遺伝情報を転写されるRNAなどの核酸を、光を照射するだけで高効率に「切ったり」「つないだり」「捕まえたり」することができるユニークな機能性核酸の創製に成功。2015年の時点ではほぼ実用化の段階までこぎつけていました。

「試薬」の供給量制限が普及を阻む

しかし、この技術を使うには、光に反応しDNAの特定の部位と結合するという機能を持った特殊な「試薬」が必要となります。研究チームは試薬の合成にも成功していましたが、多段階にわたる精緻なプロセスを要するため、合成収率は極めて低く生産量が限られていました。また試薬の実用化に向けては供給量確保が求められていた上、低コスト化も大きな課題となっていました。

世界的に成長著しいバイオ産業において、先行する欧米の後塵を拝する状況から脱し「日本発・北陸発」の技術を立ち上げたい」とする藤本教授らの熱意に応える形で、2015年5月、当社は事業化の検討を開始したのです。

精密有機合成の知見を活用

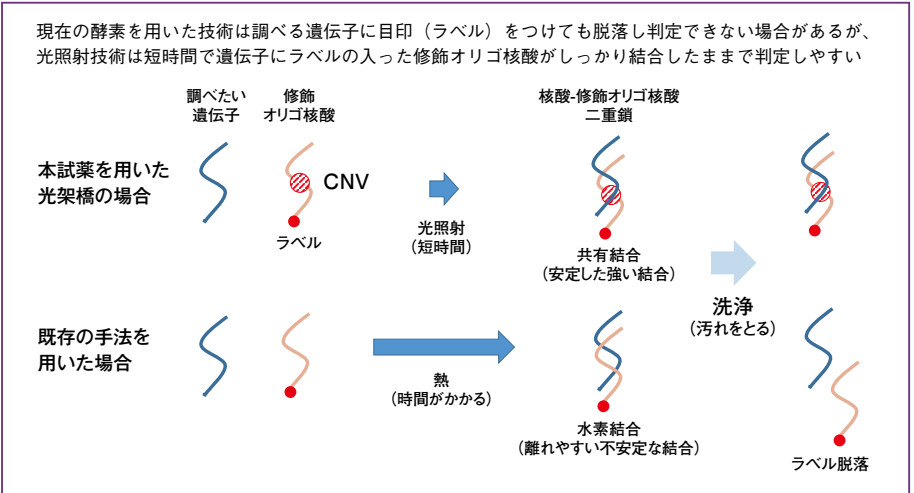
当社はコア技術である精密有機合成の知見を生かして、同年7月に試薬の第一次試作品の合成に成功し、求められる性能をクリアしました。その後1年間にわたり藤本研究室と共同研究を重ねながら改善を進め、原材料から精製方法、合成プロセスまでのすべてを見直しながら収率を高めることができました。



特殊化学品本部
副本部長（研究開発担当）
兼事業企画室長
稲継 崇宏

研究開発部
石丸 勇雄

研究開発部
向當 綾子



した。その結果、高品質を確保しながら低コスト化も実現、2016年9月、正式に市場投入を開始し、安定供給への道を拓きました。

現在、当試薬「CNVシリーズ」を、DNA/RNA合成試薬、および試薬を組み込んだ修飾オリゴ核酸^{※3}として業務提携先パートナーの協力を受け、生産・販売しております。

遺伝子診断、遺伝子治療への応用も期待

当社では、試薬の供給先として全国の医療機関や研究機関を想定し、藤本研究室や

顧客と共同で実用化に向けた作業を進め、商社などとともに販売チャネルの整備に取り組んでいます。また、この試薬は、分子標的薬治療^{※4}など先進医療のために遺伝子診断をする体外診断用医療機器への用途のほかにも、遺伝子治療や生体高分子^{※5}の機能解明や、核酸医薬品^{※6}製造などの分野での活用が将来期待されています。

今後さまざまな分野でさらなる貢献を果たし、成長分野を創っていきたいと考えております。

用語解説

※1 北陸先端大

北陸先端科学技術大学院大学。石川県能美市にあり、「JAIST」の通称で知られる。日本初の国立大学院大学として1990年に設立され、主に産学官が連携した研究を行う。

※2 ケミカルバイオロジー

分子生物学的な手法に加えて有機化学的な手法も駆使し、核酸や蛋白質など、生体内分子の機能や反応を分子レベルから扱おうとする学問領域のことを指す。

※3 修飾オリゴ核酸

遺伝子検査の際、検査効率を上げるために、対象となる遺伝子と他の遺伝子を区別できるよう目印をつけたり操作したりする。その際化学的に合成された（＝修飾）小さな（＝オリゴ）核酸＝修飾オリゴ核酸が幅広く使われ、遺伝子の研究や検査には幅広く使用される。

※4 分子標的薬治療

投薬により体内の特定の分子を狙い撃ちにして、分子の持つ機能をおさえるようにする治療のこと。特にがんの治療などに活用される。

※5 生体高分子

体内に存在する高分子の有機化合物のことで、糖質、タンパク質、核酸（DNA・RNA）などがある。

※6 核酸医薬品

従来から使われていた治療薬の種類「低分子医薬品」「抗体医薬品」に続く第3世代として期待されている医薬品。DNA・RNAの構成成分である塩基を組み合わせで合成したもので、がん治療などへの活用が期待される。

連結貸借対照表

(単位:百万円)			
科 目	当期 (2016年12月31日現在)	前期 (2015年12月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	26,448	26,933	△484
現金及び預金	5,882	7,652	
受取手形及び売掛金	11,029	10,700	
商品及び製品	3,977	3,276	
仕掛品	717	875	
原材料及び貯蔵品	3,089	2,812	
その他	1,794	1,697	
貸倒引当金	△42	△81	
固定資産	24,131	22,133	1,997
有形固定資産	19,897	18,189	1,708
建物及び構築物(純額)	9,518	7,460	
機械装置及び運搬具(純額)	2,214	2,374	
土 地	6,231	6,262	
その他(純額)	1,932	2,091	
無形固定資産	733	972	△239
投資その他の資産	3,500	2,971	528
資産合計	50,580	49,067	1,512

連結損益計算書

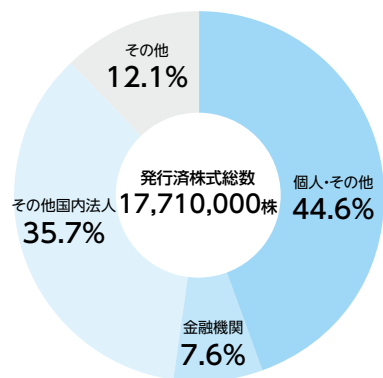
(単位:百万円)			
科 目	当期 (2016年1月1日～ 2016年12月31日)	前期 (2015年1月1日～ 2015年12月31日)	増減
売上高	44,222	46,526	△2,303
売上原価	29,490	30,713	△1,223
売上総利益	14,732	15,812	△1,080
販管費及び一般管理費	13,274	13,448	△174
営業利益	1,458	2,364	△905
営業外収益合計	476	474	1
営業外費用合計	345	395	△49
経常利益	1,588	2,442	△854
特別利益合計	3	225	△221
特別損失合計	546	498	48
税金等調整前当期純利益	1,045	2,169	△1,123
法人税等合計	499	741	△241
当期純利益	545	1,427	△882
非支配株主に帰属する当期純利益	198	276	△77
親会社株主に帰属する当期純利益	346	1,151	△804

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)			
区 分	当期 (2016年1月1日～ 2016年12月31日)	前期 (2015年1月1日～ 2015年12月31日)	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,235	4,602	△3,366
投資活動によるキャッシュフロー	△4,252	△3,014	△1,238
財務活動によるキャッシュフロー	1,636	449	1,186
現金及び現金同等物の期末残高	5,834	7,539	△1,704

株式の状況

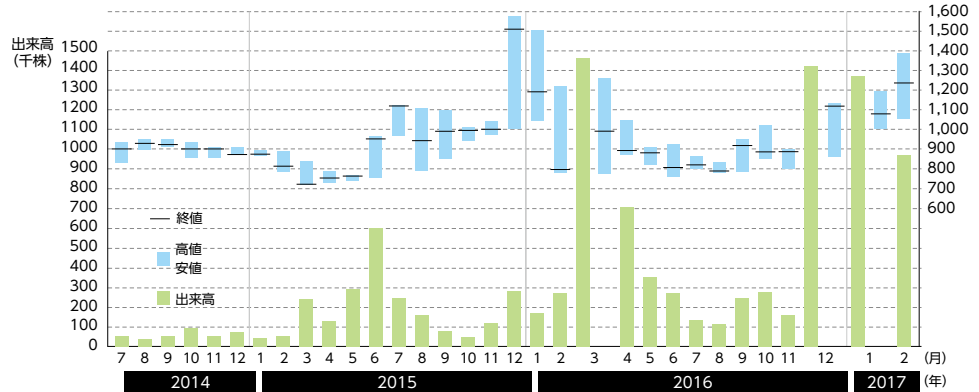
所有者別分布状況



連結対象会社

山田製薬株式会社	日華化学研究(上海)有限公司	ニッカ U.S.A., INC.	STC ニッカ CO., LTD.
コスメラボ株式会社	DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL	ニッカ KOREA CO., LTD.	ニッカ VIETNAM CO., LTD.
イーラル株式会社	TRADING CO.,LTD.	PT.インドネシアニッカケミカルズ	広州日華化学有限公司
大智化学産業株式会社	香港日華化学有限公司	浙江日華化学有限公司	
江守エンジニアリング株式会社	DEMI KOREA CO., LTD.	台湾日華化学工業股份有限公司	

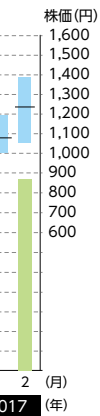
株価の推移



※2015年12月25日以降の出来高は、東証と名証を合わせた情報を掲載しています。
なお、終値は東証の終値を掲載しています。

持分法適用会社

ソルベイ日華株式会社



福井県初の「SMBCなでしこ融資」の認定を受けました

昨年10月、福井県で初めて、株式会社三井住友銀行が取り扱う「SMBCなでしこ融資」の認定を受けました。当融資は、該当会社の女性活躍推進の取組状況を三井住友銀行が独自の基準で診断し、今後の女性活躍推進に向けた取り組みを支援する融資商品です。

- 当社は次の点を評価され、「今後、女性活躍が期待できるグロース企業」との診断結果を得ました。
- ①社員が自ら取り組む姿勢を重視し、意欲の高い社員に対して、個々の特性に沿った研修やセミナーへの参加機会を提供。
 - ②多様な働き方を選択できる仕組みづくりとして、勤務時間や勤務場所を柔軟に対応する制度や、生活ステージにあわせてポジションや職務内容等を選択できる制度を導入予定。
 - ③研究職における正社員数を部門別・男女別に開示するなど、事業特性に応じた情報開示を実施。
- 今回のなでしこ融資認定・診断により確認された当社の女性活躍推進の現状と課題を踏まえ、当社社員がさらに活き活きと活躍できる職場づくりを目指してまいります。



女性社員スキルアップ研修の様子

水系金属洗浄剤が「産業洗浄優秀新製品賞」を受賞しました

昨年10月、当社の水系金属洗浄剤「ニッカクリヤー SP-4500」が、日本産業洗浄協会*が認定する「2016年産業洗浄優秀新製品賞」を受賞しました。

金属洗浄剤は、金属加工分野などの製造ラインにおいて、加工対象品の油分や微粉末などの汚れを洗浄するために欠かせないものですが、その機能性を発揮するために高温での洗浄が一般的であり、省エネや効率アップの観点から、従来より低温でも洗浄できる剤が求められていました。当製品は、洗浄性、消泡性、速乾性、防錆性、防腐性、浸透性という6つの特性を従来以上の性能レベルで同時に実現しながら室温洗浄が可能な洗浄剤です。

今回の受賞は、洗浄性が向上すると泡が立つ、消泡性が向上すると洗浄力が低下する、といった両立が困難な関係をこれまでの常識にとらわれない発想により室温洗浄という制約の中で克服・解決したという、環境対応への新しい取り組みと独創性が評価されました。昨年の販売開始以来、金属部品メーカーに採用されるなど、お客様の製品品質向上に寄与し、かつ生産活動における使用電力削減及び温室効果ガス排出量削減に貢献しております。



産業洗浄優秀新製品賞の表彰状など

※日本産業洗浄協会：地球環境保護推進と工業洗浄分野における問題の早期解決を図るため、洗浄剤、洗浄装置、周辺装置など異業種の関連企業と団体が集結し通商産業省(現経済産業省)および関係省庁が協力し1994年に発足されました。

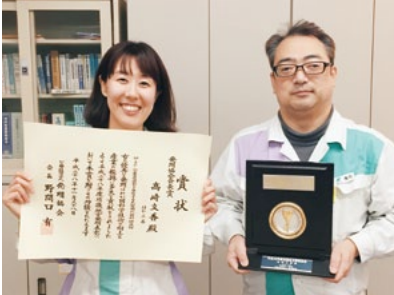
化粧品部門の特許が近畿地方「発明協会会長賞」を受賞しました

昨年11月、公益社団法人発明協会*1主催による平成28年度近畿地方発明表彰*2において、当社化粧品部門デミコスメティクスカンパニーの特許「MITF-M産生促進剤を含有する毛髪用化粧料組成物(特許第5836666号)」が「発明協会会長賞」を受賞しました。

受賞特許は、植物エキスのフォルスコリンとウメエキスを組み合わせると白髪予防が期待できるという新しい技術で、これらを配合した機能性頭髮化粧品の開発・製品化がスカルプケア市場の拡大に貢献している点が評価され、受賞の運びとなりました。

デミ毛髪科学研究所は、1984(昭和59)年の設立以来、30年以上にわたり日本人の髪や頭皮について研究を重ねてきました。今後も一歩先をゆく商品開発を目指して研究し、新しい可能性の発掘に努めてまいります。

- ※1 公益社団法人発明協会：全国の研究開発を行う企業の多くが入会しており、発明奨励振興及び青少年創造性開発育成事業等を実施しています。
※2 地方発明表彰：全国を8地方に分け、各地方において優れた発明等を完成した方々、発明の実施化及び指導、奨励、育成に貢献した方々を称えるために、公益社団法人発明協会が1921(大正10)年に始めた歴史ある表彰事業です。



発明協会会長賞を受賞した当社研究員

台湾日華化学がOHSAS18001の認証を取得しました

昨年11月、当社子会社の台湾日華化学工業股份有限公司が、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるOHSAS18001の認証を取得しました。OHSAS18001は、企業などが労働安全衛生に対する自らの姿勢を従業員と社会に示す規格であり、国際的に広く採用されています。

台湾日華化学は1968(昭和43)年設立と当社海外グループ会社の中で最も歴史がある拠点です。コア事業である繊維加工薬剤分野だけでなく精密加工用薬剤分野へも積極的に事業展開しており、今回、労働安全衛生上のパフォーマンス向上にも継続的に取り組んでいることが評価され、認証取得となりました。今後も、従来より取得しているISO9001及びISO14001と共にOHSAS18001を活用し、業務の効率化、社員のレベルアップ等組織的な改善を行い、労働災害リスクの低減を図ることで、従業員やお客様からより信頼され選ばれる企業となるよう、まい進してまいります。



OHSAS18001の認証状